

令和7年度第1回

隠岐の島町総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和7年4月28日(水) 9時00分～10時10分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 1階 町民ホール

3. 出席者 町長 池田 高世偉

教育委員会 教育長 野津 浩一

教育委員会 委員 藤野 雅栄

教育委員会 委員 眞野 裕敏

教育委員会 委員 谷田 一子

【事務局】

総務学校教育課長 金井和昭、社会教育課長 中村恒一

中央公民館長 木瀬高宏、

総務学校教育課総務係長 大上達也、総務学校教育課総務係企画幹 村尾駿

4. 欠席者 教育委員会 委員 常角 敏

5. 協議事項 隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討結果報告を受けた今後の対応について

6. 傍聴人数 14名

7. 会議の経過 別紙のとおり

8. 会議録作成者 総務学校教育課 総務係 大上達也

9. 会議録署名者 署名日 令和 7年 5月20日

町長 池田 高世偉

教育委員 藤野 雅栄

別 紙（議題の経過）

○開 会

事務局職員が出席者の確認をした後、町長は開会を宣言した。

（池田町長）年度当初のお忙しい中、委員の皆様にはご協力をいただき、誠にありがとうございました。また、日頃の活動に対しまして、心より御礼申し上げます。私は、教育を重点施策として取り組んでまいりましたが、まだまだ改善の余地があると感じております。本年、3 期目を迎えるにあたり、教育の充実を図るため、「隠岐びとを守り、育てる」というテーマに力を注いでまいります。そもそも、「隠岐びと」という言葉が誕生したのは、今から 20 年前の町村合併の際です。それまでは、各町村で「人を育てる」「子供を育てる」という表現が使われていましたが、新しい町の未来を考えたとき、「隠岐びと」という言葉を採用することで、地域の誇りを表現しようという試みがありました。平成 16 年の建設計画において、「隠岐びと」という言葉を初めて明記し、それ以来、大切に受け継いできたものです。沖縄のように「島人（しまんちゅう）の心」「島人（しまんちゅう）の魂」といったテーマはまだ確立されていませんが、私たちは隠岐の島町の町民憲章に基づき、日々「隠岐びとを守り、育てる」活動を推進しています。子供たちが地域への誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育むため、委員の皆様には引き続きご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。本日の会議は、予定どおりの議程で進行いたします。今回の協議事項は、「隠岐の島町立小学校のあり方に関する検討委員会」より提案された小学校のあり方に関する検討報告書を基に、今後策定する計画に対する方針について皆様のご意見を伺う場とさせていただきます。活発なご意見をいただけますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○会議録署名者の氏名

町長は、藤野委員を議事録署名者に指名した。

○協議事項

- （１）隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討結果報告を受けた今後の対応について事務局より隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討委員会から教育長に提出された、隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討報告書を中心に説明をおこなった。

（金井課長）本報告書は、少子化の進行を踏まえ、小中学校の適正な規模・配置について検討した結果をまとめたものです。委員会は計 9 回の会議を開催し、児童生徒にとって望ましい教育環境の提供を目指し議論を重ねました。

主な検討結果

○適正な規模

小学校の1学級の児童数は20人以上が望ましい。

中学校の1学級の生徒数は25人以上が望ましい。

○適正な配置

小学校：現在の7校を2校に統合（西郷小学校と新設小学校）。

統合の実現目標は令和13年度。

中学校：現在の4校を2校に統合（西郷中学校と新設中学校）。

統合の実現目標は令和11年度。

○児童生徒の目指す姿

自ら学び、学力を身につける。

未来をたくましく生きる。

自分や友達を大切にする。

夢に向かって努力する。

自分の考えを自分の言葉で表現する。

○学校統合のメリット・デメリット

メリット：望ましい学習環境の確保、教育の充実、施設の効率的活用。

デメリット：学校の減少による通学負担の増加、地域コミュニティの希薄化。

○今後の課題

地域住民への丁寧な説明。

放課後の受け皿や長期休業期間の支援策の検討。

地域スポーツクラブの現状と課題のさらなる調査。

学校統廃合による地域振興の維持。

検討委員会は、児童生徒のための「子供ファースト」の立場で議論を進め、今後の計画策定にあたり、教育委員会に具体的な方策の検討と速やかな対応を求めています。

（池田町長）ただいま、事務局から説明がありましたが、まず検討委員会の検討結果についてご意見、質問を委員の皆さんお願いします。

（谷田委員）最終的に、全会一致の意見として2校に統合することが決まりました。しかし、これまでの検討過程では、6校案を含め、さまざまな統合の形が議論されてきたと認識しております。それらの多様な意見を踏まえ、どのような経緯で今回の統合案にまとまったのかを確認したいと思います。

（金井課長）委員の皆様それぞれに思いがある中で、各委員から様々な提案がありました。将来的な児童数については、減少傾向が続くと予測されます。そのため、6校案や4校案も検討されましたが、児童数の減少が進んだ場合に、これらの学校をどのように運営していくかという課題が生じる可能性があります。結果として、統廃合の議論を避けられない状況が予測されることから、最終的に2校への統合が最も適切であるとの結論に至りました。

(谷田委員) それは総意で、2校でいきましょうということでしょうか。

(金井課長) 委員の皆様それぞれに思いがあるかとは思いますが、検討委員会の終了時には、毎回委員長が「これでよろしいですね」と確認を行い、正式に会議を閉じています。そのため、委員の皆様には十分に理解していただいているものと考えております。

(眞野委員) この2校っていうのは、もう決定というか、やはり、もうこの方向でいくということでしょうか。

(金井課長) 今回お示しした内容は、検討委員会における検討結果となります。これをそのまま次の計画に反映させるかどうかについては、本日の会議を踏まえ、今後、内部で協議を進めていくことになると考えております。

(藤野委員) 16ページに記載されているデメリットについてですが、もう少し整理された表現が必要だと思います。「一人一人に応じたきめ細やかな指導ができにくくなる」という点について、小規模校と比較した場合の判断だと思います。しかし、統合によって指導が難しくなるというのは必ずしもイコールではないと感じています。また、デメリットとして挙げられている「通学時間の増加」は、子供にとって負担が大きい点は理解できます。しかし、「教職員の目が十分に届きにくくなる」という点については、本当にデメリットと捉えるべきか疑問に感じました。統合による影響として、環境の変化による生徒のメンタル面への影響は十分理解できますが、その他のデメリットについては本当にデメリットと言えるのか、慎重に考える必要があると感じています。

(金井課長) 授業について、そして学校生活全体についてですが、先ほど藤野委員が述べられたように、これは現在の小規模校との比較に基づくものです。現在の小規模校では、少人数ゆえに先生の目が細かく行き届きやすい環境にあります。それと比べると、統合後の学校ではその点が課題として挙げられるため、デメリットとして考えられています。登下校についてですが、これは当然ながら、統合後は現在の学校より遠くなるため、通学の負担が増えることが予想されます。現状と比較した際のデメリットとして、理解いただければと思います。

(池田町長) 小学校の、適正な規模について、皆さんご意見お願いします。

(谷田委員) まず、人口減少のスピードについてですが、私たちが想定していた以上に急速に進んでいると感じています。このような時代の中で、島の教育環境をどのように整えていくかは、島の未来にも直結する重要な課題です。約1年にわたり議論を重ねてくださった検討委員会の皆様に、深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。小・中学校の規模についてですが、最初に「小学校は1学級20人以上、中学

校は25人以上が望ましい」という規模が提示された際、正直驚きました。特に西郷小学校以外の学校ではこの基準に当てはまらないため、今後どのようになっていくのかなと考えました。しかし、審議の進行を見守る中で、単に学校の規模を決めるのではなく、「どのような子供を育てたいのか」を議論した上で、そのために適切な学校規模を検討していることがわかりました。この過程を経たことで、「子供ファースト」という視点がより明確に打ち出されたのだと感じました。私自身の経験を振り返ると、同じ学年に20人の子供がいる環境では、少人数では得られない多様な学びの機会が生まれると考えます。学習やスポーツにおいても、日常生活の中で支え合う関係性を築くことができ、これは小規模校では難しい部分もあると思います。もちろん、小規模校ならではの良さもあり、縦割りの活動の工夫や、他校との交流による学びが可能ですが、日常的に一定規模の集団の中で活動することには、また違った大きな意味があると感じています。今後の課題としては、島の学校のあり方をどのように整えていくのか、どのような教育環境を構築していくのかが重要です。検討委員会が「小学校は1学級20人以上」という規模を提案したことは、大きな意味があると感じています。私自身、小規模校での勤務経験が長く、その良さを十分理解しているため、この方針には複雑な思いもあります。しかし、児童数の減少傾向を示す資料を見たとき、この基本方針を打ち出すことが、今後の教育環境を考える上で重要な決定であると受け止めました。

（藤野委員）私も谷田さんと同じく、この会議録を読んで、非常に深い議論が行われたことを感じました。子供たちの教育、そして隠岐の教育のあり方について、真剣に議論されていたことが伝わり、大変意義のある内容だったと思います。「1学級20人以上」「中学校は25人以上」という基準についてですが、単に「30人や35人ではどうなのか」といった数の問題ではなく、現在の隠岐の児童・生徒数の実態を踏まえた適切な規模として示されたものだと感じました。また、「子供像」の5つの項目は非常に分かりやすく、目指すべき方向性が明確に表現されていると感じました。何より、学校の第一の目的は「子供の教育」とあるという基本的な考え方がしっかりと示されている点について、私はこの方針で良いのではないかと思います。

（眞野委員）最初にこの「20人」という数字を見たとき、さまざまな疑問が浮かびました。なぜ20人なのか。本当にこれで良いのか。2校に分けても問題はないのか。そんな思いがありました。しかし、これからの時代や新しい流れを考えると、こうした変化も必要なのかもしれません。「大きいほうが良い」「小さいほうが良い」といった議論はあると思いますが、それぞれに良い点があるはずです。今回の件についても、メリット・デメリットがあることは理解していますが、実際にはもっと多くの要素があるのではないかと感じています。その点について、もう少し詳しく説明が必要だと思いました。2校にすることで、人数の変化が生じます。その結果、町長が掲げた「隠岐びと」を育てるという取組に賛同し、隠岐びとを好きになってくれる人が増えるのであれば、とても喜ばしいことだと思います。そうした人が増えてほしいと願っています。

(池田町長) 正直なところ、人数について何が最適なのか、私自身も明確な答えを持っていません。しかし、最終的には意見をまとめ、検討委員会の方針を尊重したいと考えています。私自身、複式学級を経験し、また大規模な西郷小学校での生活も経験しました。それぞれに難しさがありますが、将来を見据えたとき、検討委員会での議論を踏まえながら、年度ごとに計画を明示していくことが重要だと思います。議論を重ねた結果、何が良いのか悪いのかを明確に判断するのは難しいかもしれません。しかし、検討委員会の提案をもとに計画づくりを進めていくことが大切だと考えています。中学校についても同様の方針で進めていくのが適切でしょう。

(各委員) 異議なし

(池田町長) 適正な規模については、隠岐の島町小中学校のあり方検討委員会の検討結果の提案をもとに計画を策定していきたいと考えています。次に、配置についてです。まずは小学校の配置について、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

(谷田委員) 小学校の配置というのは、西郷小学校ともう1校の新設校の場所という事でしょうか。

(池田町長) 先ほど協議しました、小学校の適正規模として「1学級20人が望ましい」とされているため、小学校2校が適切だと考えられています。しかし、本当にそれが最善なのか、慎重に検討する必要があります。これはあくまで初期の構想であり、令和13年を目途とした方針として示されていますが、その実現性についても考えていくべきでしょう。また、新設小学校については「島の中心部に設置する」という提案が出ています。これに関して、どのように考えるべきか、今後更に議論を深める必要があると感じています。

(谷田委員) 島の中央部、具体的には原田エリア付近が新設校の候補地として提案されています。場所を考える際、通いやすさや災害の影響が少ない点が重要視されると思います。しかし、各地域にはそれぞれ特色があり、新しい学校へ統合することで、これまでの地域ごとの特色が一時的に途切れる可能性もあります。そのため、慎重に検討を進めることが必要だと考えます。また、1学級あたりの望ましい人数が示されている中で、新設校を設置し、同規模の学校を2校体制とする方向は、今後進めていければ良いのではないかと感じています。同規模の2校が成立することで、人数的な均衡がとれるほか、2つの小学校が格差なく様々な活動を計画・実施できる点は良い方向性だと思います。

(藤野委員) 適正な規模を考えると、2校制が自然な流れになるのではないかと感じています。しかし、場所の選定については慎重に検討すべき点があります。特に、五箇や都万のような地域では、通学の負担が大きくなることが懸念されます。科学的

な視点から見ても、通学時間の短縮は重要な要素だと思います。各地域にはそれぞれ良い点があり、地域の偏りが少ない場所が適切ではないかと考えています。子供たちの負担を軽減しつつ、全体としてバランスの取れた配置を目指すことが重要だと思います。

(眞野委員) この協議について、正直なところ、私自身も何が最適なのかは分からないというのが本音です。とても難しい課題だと感じていますし、事業としても非常に大きな決断を伴うものだと思います。そのため、適切な言葉を見つけることが難しく、現時点では明確な表現が思い浮かばないのが正直なところです。

(谷田委員) 2校制に向けて動き出したことについて、将来を考えると妥当な選択だと感じています。子供たちの教育を考えた際、今後の再編が繰り返されることのないよう、現段階で方針を絞ることが重要だと思います。この決断は非常に重みのあるものですが、今の時点でしっかりと方向性を定めることが必要だと考えています。

(池田町長) 最初に申し上げましたが、ここで議論されているのは基本方針であり、提案に対して「分からない」という意見があっても構いません。島の中心にするかどうかも含め、最終的な決定は次期計画の中で、立地の詳細な調査を行った上で決定されるべきだと考えています。会議の目的は、提案に対して皆さんがどう考えているかを共有し、それを基に町としての計画を作ることにあります。ここでの議論が、その計画の土台になるということです。例えば「1学級20人規模で2校」という考え方がありますが、それに対しても、場所の選定を含め、さらに詳細な調査を行う必要があります。しっかりとした計画を策定するためには、現段階での意見交換が重要です。改めて申し上げますが、提案に対して「違うと思う」「分からない」といった率直なご意見をお聞かせいただきたいと思います。それが町の計画に反映されることになります。また、例えば令和13年度を目途として進める小学校の計画についても、皆さんの考えを伺いたいと思います。

(谷田委員) 学校の場所を決める際、遠方からの通学距離は、小さな子供にとって大きな負担となります。しかし、実際の状況を考えると、1時間程度の通学は今では一般的になりつつあります。例えば、私の実家がある大社町では、日御碕や佐香地区など、長距離通学が必要な子供たちもおり、スクールバスを利用して大社小学校へ通っています。横田の状況も同様でしょう。そのため、地域の実情を踏まえつつ、島の交通状況や道路環境、土地の条件を考慮し、子供たちへの負担ができるだけ少なくなるような適切な場所を設定していただきたいと考えます。

(池田町長) 皆さん、2校制にすることについては、先ほどの規模を考えると避けられない選択だと思います。その方向で進めていきましょう。ただし、学校の位置については、西郷小学校は現状のままとし、新設小学校については再考し、計画の中で明示する方針とします。よろしいでしょうか。適切な調査を行い、その結果を踏ま

えた決定が必要です。統合の時期については、令和 13 年度を目途としています。小学校の統合については、令和 13 年度を目途とする計画が提案されています。しかし、これだけの学校を抱えることを考えると、単に目途を設定するだけではなく、地域への説明や教職員の配置など、多くの課題が伴います。検討委員会の提案では令和 13 年度に統合を進める方向ですが、小学校の現状を考えると、まだまだ慎重な検討が必要だと感じています。そのため、今後の地元説明のスケジュールや教職員の配置など、さまざまな要素を考慮した上で、計画の中で具体的に示していくことが重要です。令和 13 年度を目途とする提案はありますが、それがそのまま確定するものではなく、小学校の統合については町の次期計画の中でしっかりと示し、丁寧に進めていく必要があります。この方針について、ご理解いただければと思います。

（谷田委員）中学校の統合については、5 年後を目途とし、小学校は令和 13 年度を目途に進める計画となっています。審議の中でも、「中学校の教育環境をできるだけ早く整えてほしい」という意見が出ています。一方で、地域の学校が統合されることについては、不安や戸惑いを感じる人も多く、地域の学校がなくなることへの受け入れがたい思いがあることも想像に難くありません。特に小学校については、令和 13 年度を目途としながらも、地域の状況を踏まえ、選択肢を広げる形で慎重に進めることが重要だと考えます。住民の不安を軽減できるよう、丁寧に計画を進めていただきたいと思います。

（藤野委員）私も、中学校と小学校では、地域にとっての意味合いが異なると感じています。特に、小学校がなくなることの影響は大きく、慎重な対応が求められるでしょう。そのため、時間をかけてじっくりと検討しながら進めていくことが重要だと思います。

（池田町長）小学校については、地域性が高いことを考慮しつつ、中学校も慎重な計画のもとに進めることが重要です。その点をご理解いただきたいと思います。小学校については、1 学級 20 人規模で 2 校とし、時期については綿密な計画を立てた上で進めます。また、学校の位置についても、詳細な調査を行ったうえで計画に反映させます。西郷小学校については、現在の校舎を活用する方向で検討委員会の提案を基に進めていきたいと考えています。中学校については、改めて配置計画を検討し、2 校体制とします。統合の時期は令和 11 年末を目標とし、西郷中学校と西郷南中学校の校舎をそのまま活用する予定です。この方針について、皆さんはどうお考えでしょうか。

（谷田委員）検討委員会からご提案いただいた内容について、私もこの方向で進めるのが最善だと考えています。ただ、西郷中学校と西郷南中学校の 2 校がありますが、どちらも中心部に位置しているため、教育環境の面では課題があるのではないかと感じています。現在、校区外申請をして入学されるケースが多く、布施・中村地区の生徒は西郷南中学校に通っている状況です。そうした現状を踏まえると、西郷南

中学校の校舎を活用するのが妥当ではないかと考えます。

(眞野委員) 現在、南中学校には中村・布施方面の生徒が通っているという例もあるため、小学校ほど統合の進行が難しくないのではないかと感じています。しかし、小学校も含め、統合に関する十分な説明を計画の中に盛り込みながら進めていくことが重要だと考えています。

(藤野委員) 特に五箇中学校・都万中学校については、今後、学校自体がなくなる方向となります。そのため、地域に対する丁寧な説明が必要だと考えています。また、中学校では部活動との関係も重要な課題になります。地域のスポーツクラブなどとの連携を強化していくことが求められるでしょう。現状では、地域の熱意ある方々が先導し、子供たちは学校行事とのバランスを取りながら部活動に参加しているように思います。今後、地域が指導を担う形になれば、子供たちは放課後の活動でより多くの場所を行き来することになり、結果として負担が増える可能性もあります。現在、午後8時頃まで活動している例もあると聞いていますが、こうした状況を見ると、学校と地域の連携をより強化しないと、子供たちに過度な負担がかかることを懸念しています。そのため、中学校のあり方とともに、部活動のあり方も同時に検討しながら進めていくことが必要ではないかと考えています。

(野津教育長) 今年度、本町において部活動の地域移行に関する検討委員会を設置し、進め方について議論を行う予定です。社会教育課が窓口となり、事務局として運営を担当します。現在、校区外申請によって異なる中学校へ通う生徒がいる状況ですが、部活動の地域移行が進むことで、こうした問題が解消される可能性もあります。しかし、地域と学校の関わりがどのように変化していくかが重要な課題となるため、その点についても今後の議論を深めていきたいと考えています。

(谷田委員) 部活動との連携についてですが、同規模の学校が2校体制となることで、西郷中学校と西郷南中学校に、生徒がこれまで部活動を理由に校区外申請をしていた状況が改善される可能性があります。部活動の検討を進めることで、地域や学校とのつながりが強まり、本来の校区の学校へ進学しやすくなるほか、交流や競技の機会も増えると考えられます。また、これまで地域独自で発展してきたスポーツもあり、例えば相撲などはその代表的な例です。こうした競技が地域の活動として継承されていくことが重要であり、地域と学校が連携しながら、子供たちがより良い環境で活動できるような形を整えていく必要があると考えます。

(池田町長) 部活動については、学校のあり方とともに検討されており、今年度から地域移行に関する議論も進められていきます。これらの点を踏まえ、改めて考える必要があるかもしれません。難しい問題ではありますが、整理してまとめたいと思います。まず、進行の点について至らない部分があったことをお詫び申し上げます。協議しづらい提案もあったかと思いますが、本会議では皆様のご意見を伺うこと

を目的としております。進行の中でお話ししたように、教育会議は計画を進めるための場です。次期計画については、適切に進めてまいります。小学校については2校体制とする。統合の時期については、今後の調査を踏まえ、計画の中で明示する。西郷小学校は現在の校舎を活用する。新設小学校の位置については、さらなる調査を行い、次期計画の中で示す。地域から学校がなくなるという重大な課題があるため、地元への十分な説明を行いながら、統合の時期を決定する必要があると考えています。中学校についても2校体制とする。統合時期は令和11年度を目途とする。検討委員会の報告では、できるだけ早く統合を進める方針が示されている。学校の位置は、西郷中学校と西郷南中学校の校舎を活用する。本日の総合教育会議において、この方針を町へ示すことでよろしいでしょうか。進行が至らなかった点につきましては、ご容赦ください。以上の方針でまとめさせていただきます。

（藤野委員）この2校体制については、将来的に1校へ統合される可能性があるのではないかという懸念が大きいと感じています。そうならないためにも、町の中核として子育て支援を充実させることが重要です。地域の衰退が学校の統合を招くのではなく、地域の活性化を通じて学校を維持していくことが求められます。あり方検討委員会の吉田副委員長も述べていたように、放課後支援の充実や「子育てがしやすい町づくり」を進めることが大切です。今後の行政の柱として、町長にはぜひこの点を重視し、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

（池田町長）ありがとうございます。人口減少対策と子育て支援は、町の重要な柱であり、喫緊の課題です。非常に難しい問題ではありますが、皆さんも同じ思いを抱いていることと思います。将来的に子供が増える環境を整えたいと考えています。余談ですが、5年前には100人いた子供たちが、2年前には80人、去年は68人と、ついに70人を下回る状況になりました。この現状をしっかりと受け止め、何とか改善していかなければならないと強く感じています。ご指摘の通り、重要な課題であることを認識しています。何とか頑張っていきます。

（谷田委員）藤野さんもおっしゃったように、学校がなくなることで、その地域に定住するかどうかを迷う人が多くなるのは間違いありません。暮らしにくさや不便さが生じることも考えられます。特にスクールバスでの通学となると、吉田副委員長が指摘されていたように、放課後の学童保育のシステム構築が喫緊の課題となります。「学校がなくなるから地域が衰退するのか、地域が衰退したから学校がなくなるのか」この問題は単純な因果関係ではなく、どちらが先かという話ではないと思います。今回の議論では、地域のために学校を残すのではなく、子供たちのために学校をどうするかを考えることが重要でした。しかし、学校がなくなることで、その地域に住む理由を見いだせなくなるという現状もあります。そのため、地域活性化の観点からも、町として全体で対応していく必要があると感じています。また、外部から移住を考える人にとっても、学校は重要な選択肢の一つです。隠岐を選ぶ理由の一つとして、学校教育と地域振興の両方を柱として進めていくことが求められ

ます。ぜひ、この点を重視し、町として取り組んでいただきたいと思います。

(眞野委員) 私も、子供たちが活気に溢れる町で育ってほしいと強く願っています。そのためには、働く世代が一度町を離れても、帰ってきやすい環境を整えることが重要です。I ターンやリ ターンの支援はもちろん大切ですが、もともと隠岐に住み、地域を支えている人々にも目を向けることが必要だと感じています。特に今回、学校がなくなる地域の人々や、隠岐で懸命に活動している方々のことを考え、今後の支援のあり方を検討していくことが望ましいのではないのでしょうか。

(池田町長) 今後の対応については、先ほどまとめた方向で進めていきたいと考えています。

(各委員) 異議なし

○閉会

町長は閉会を宣言した。